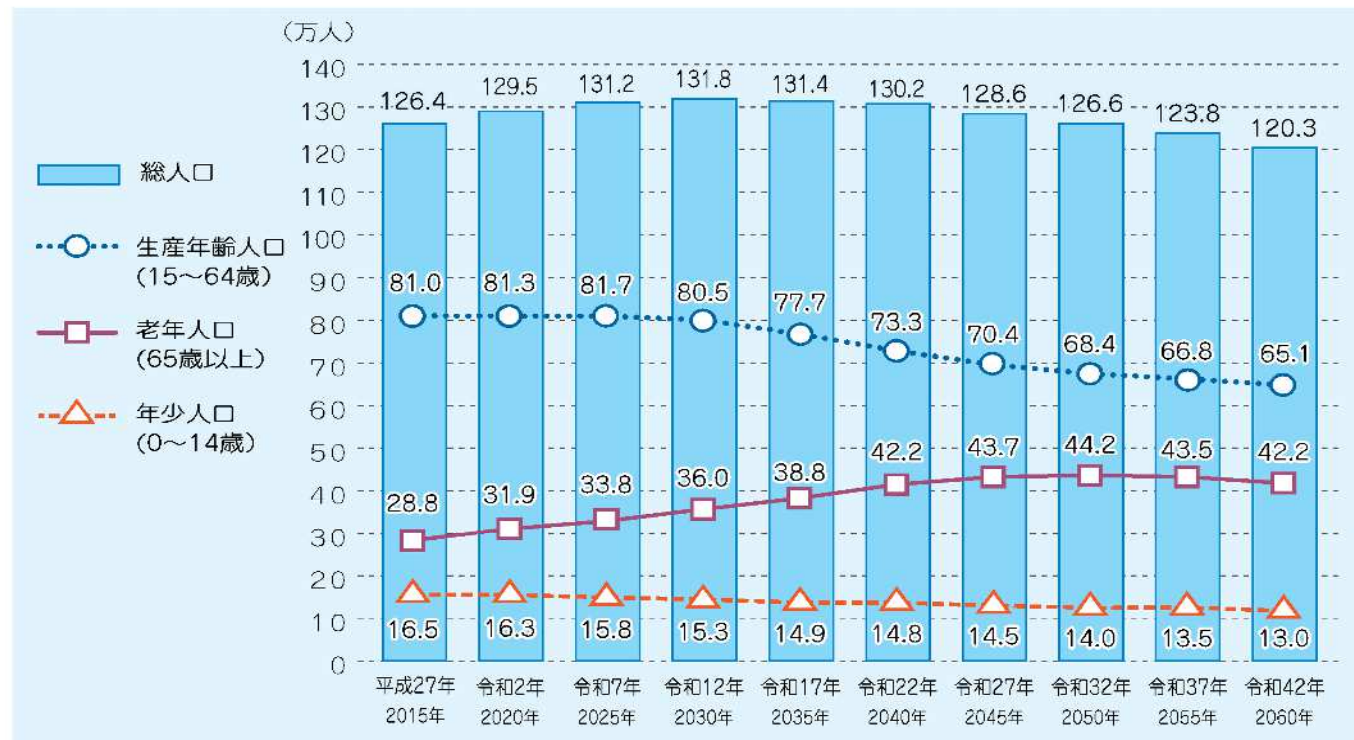


## 1 将来推計人口

◆さいたま市の令和42(2060)年までの将来人口について、国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研という。)に準拠した推計は以下のとおり。

- ・令和12(2030)年頃までは人口が増加するが、その後減少に転じ、令和42(2060)年までには120.3万人となる見通し。
- ◆年齢別では、以下のとおり。
  - ・年少人口 令和42(2060)年まで減少
  - ・生産年齢人口 令和7(2025)年までは緩やかに増加するが、その後減少に転じ、令和42(2060)年まで減少
  - ・老年人口 令和32(2050)年まで加速度的に増加を続け、令和42(2060)年には老年人口割合が35.1%の推計

### 総人口・年齢3区分別人口の推計



	平成27年 2015年	令和2年 2020年	令和7年 2025年	令和12年 2030年	令和17年 2035年	令和22年 2040年	令和27年 2045年	令和32年 2050年	令和37年 2055年	令和42年 2060年
老年人口割合 (65歳以上)	22.8%	24.6%	25.7%	27.3%	29.5%	32.4%	34.0%	34.9%	35.2%	35.1%
生産年齢人口割合 (15~64歳)	64.1%	62.8%	62.3%	61.1%	59.1%	56.3%	54.8%	54.0%	53.9%	54.1%
年少人口割合 (0~14歳)	13.1%	12.6%	12.0%	11.6%	11.4%	11.3%	11.3%	11.1%	10.9%	10.8%

資料：平成27(2015)年は、「国勢調査\*」(総務省)  
 令和2(2020)年以降は、社人研から発表された推計値  
 ※四捨五入の関係で、構成比の合計が100%にならない場合があります。  
 ※社人研の仮定値は令和27(2045)年までしか設定されていないため、それ以降は令和27(2045)年の仮定値が一定に維持されるものとしています。

## 2 将来推計人口の分析

- ◆生産年齢人口の減少は地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小は更なる人口減少を招き、更なる労働力の不足につながるという負のスパイラルに陥る。  
 そのため、生産年齢人口の減少を緩やかにするとともに、これまで働く意思がありながらも様々な制約により就労していなかった女性や、高齢者、障害者等の就業機会を促進していくことが求められる。
- ◆老年人口は、全国平均を上回る速度で増加する見込みで、社会保障費の増大などといった問題を深刻化させるおそれ。  
 そのため、高齢者が生涯現役で生き生きと活躍できるための社会参加を促進することや、介護が必要となった場合においても生涯にわたって住み慣れた地域で暮らせるよう、包括的かつ持続的な在宅医療・介護の提供をすることが求められる。
- ◆これらの人口構造の変化に伴う課題解決等に当たっては、AI(人工知能)や自動運転などの先進技術を取り入れ、単に直面する課題に対処するだけでなく、モノやサービスの生産性・利便性を飛躍的に高め、経済発展と社会的課題の解決の両立を図っていく。

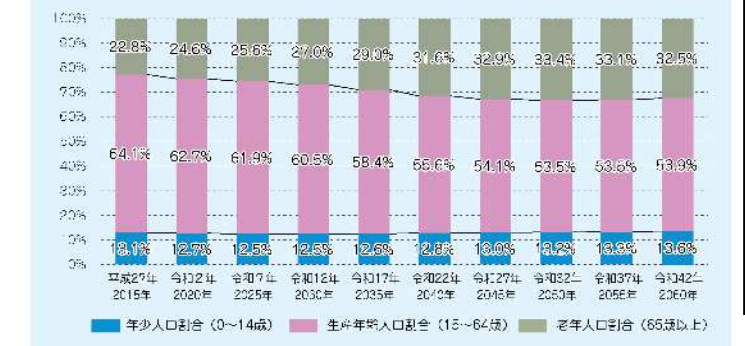
## 3 目指すべき将来の方向

- ◆将来の人口減少を見据え、本市が持続可能な都市づくりを進めるため、以下の施策を進め、可能な限り「本市全体の人口を維持していくこと」が重要。
  - ・年少人口と生産年齢人口の増加による「人口の自然増」に関する施策
  - ・若い世代の人口流入と定住化による「人口の社会増」を促す施策
- ◆加えて、以下の施策をを組み合わせ、さいたま市独自の地方創生として具体化し、「人口減少・超高齢時代に適応し、更なる成長・発展につなげ、将来にわたって活力ある都市」の実現を目指す
  - ・生産年齢人口の減少や、急速な老年人口の増加に対応する施策
  - ・本市の強みを生かして「まち」の魅力を高めていく施策

## 4 人口の将来展望

- ◆「目指すべき将来の方向」について、さいたま市の人口の将来を展望するもの。
- ◆総人口は今後も緩やかに増加を続け、令和17(2035)年頃にピークを迎えた後、緩やかに減少
- ◆社人研準拠推計と比べると、以下のとおり。
  - ・令和7(2025)年時点で約0.7万人増
  - ・令和17(2035)年時点で約2.1万人増
  - ・令和27(2045)年時点で約4.3万人増
- ◆年齢3区分別人口割合では、年少人口の割合は令和42(2060)年までおおむね横ばいに推移し、生産年齢人口\*は令和27(2045)年まで減少した後は、おおむね横ばいに推移
- ◆老年人口の割合は、令和32(2050)年頃まで増加を続け、33.4%でピーク
- ◆社人研準拠推計と比べると、以下のとおり。
  - ・年少人口の割合が維持
  - ・老年人口の割合の増加が緩和

展望人口における年齢3区分別人口割合の推移



総人口の比較

